



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「鳩にキスされた人」

この七月二十日、七十六歳を一期として山内修一先生が召されていった。彼こそは日本キリスト教界に「ゴスペル・ソング」という新風を吹き込んだ草分け的存在である。私が日本で神学生の時、伝道集会などで彼の歌を歌わない時はなかった。私がオレンジ郡教会に赴任した時に先生は聖歌隊のリーダーをしていた。以来、お交わりいただいた同郷青森の師である。先生には教団や教会の本の出版のため大変お世話になった。彼の人生のハイライトをご紹介します。

「一九五九年のくれ、二二歳のときのことです。結核の整形手術を受けるために、わたしは北海道から、青森市の郊外の臨浦園に移りました。翌年、手術室に入れられました。手術は失敗でした。胸にメスをいれる前に息ができなくなつて、のどの気管を開いて、ようやく助かったのだそうです。緑のしたたる北国の五月、退院の日がきました。手術の失敗から一年半がたっています。臨浦園のすぐ坂下の家で、体をきたえるために自炊生活を始めました。昼前に一時間ほど村の新聞配達、昼すぎは海辺で寝そべったり、好きな本を読んだりしていました。ある朝はやく海辺を歩いていると、一羽のハトが波の間でおぼれていました。わたしはおどろいて服を着たまま腰まで水につかりながら、ハトを救いあげました。ダンボールに電球をいれてハトを温めてやりました。次の日の夕方、ハトは元気になって山のほうへ飛び立っていきました。二週間ぐらいたったころです。昼すぎ海べでギターを弾いていると、ひよいと肩をつかんだものがいます。あのハトでした。しばらく、首をかしげて見ていましたが、やがてわたしの耳の穴にくちばしをいれて、何かささやくようなしぐさをします。くすぐったくて叫びたいのをじっとがまんしました。びっくりさせたくなかったのです。まもなく人が近づいてきて、ハトは飛びたちました」

この記事を読んだ時、私はイタリヤ中世の聖者アッシジのフランシスを思い出していた。彼の周りにはいつも小鳥たちが肩にとまっていたというのだ。創世記に「はとは夕方になって彼のもとに帰ってきた。見ると、そのくちばしには、オリブの若葉があった」(八・11)とある。ノアが箱舟から放った鳩が、死んだような世界に若葉という命があることを告げたストーリーである。山内先生にささやいた鳩も、彼に生きる希望を告げ知らせようとしたのかも知れない。彼は実情が細かくて人に優しく、会うといつも音楽の夢を語った。それが周りを温かくしてくれた。彼のほのぼのとする性格を垣間見る一コマである。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

